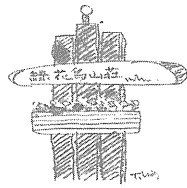


## ずいそう



## 田舎暮らしを始めました

前田 武



40歳位から将来は田舎暮らしをと思い、2000年60歳という節目の年に田舎暮らしを始めて早3年が過ぎた。

3年過ぎた今、反省と喜びを思いつくままに綴ってみたいと思う。

まず、場所の選定について、田舎は遠くにあるのは当然だが距離ではなく時間軸で考えた。

全くリタイヤしてしまえば又それなりの考え方もあろうかと思うが、当面は東京まで通勤可能地域を対象として考えた。通勤時間は短いに越した事はないが関東地区では2時間程度までは致し方ない。

私の考えた田舎暮らしとは田舎に住んで、広い土地で自由にガーデニング設計ができる。また、土・日には野菜作りや花作りが出来ること。また、出来れば川や海が近くにあるところ。

いろいろあったが、結局は東京から2時間の千葉県香取郡東庄町（成田市から約1時間）に決めた。東庄町は神話にも出てくる古い神社があり、天保水滸伝でも有名な場所である。利根川に近く、30分で鹿島灘、九十九里浜へ、40分で銚子に行ける場所である。残念ながら山はなく、30~50mからなる丘陵地帯、土地は約2,000m<sup>2</sup>で小さな竹藪に野桑や合歓の木が生えている。これなら自由にガーデニングの設計と実践ができる。

家は高基礎とし、90m<sup>2</sup>平屋で広いデッキを設けた。リビングはアトリエ兼用の高天井とし、棚を設けて趣味で集めた古い船のランプを飾れるようにした。また、西日の射す窓には、造り貯めたスタンドグラスをはめ込んだ。庭には自生していた野桑と合歓の木をそのまま残し野菜畑と花壇に分けた配置とした。

最初の1年は虫の襲来に遭い大変であった。元々竹藪を整地して建てたので虫たちの住処を破壊したためか、虫たちが襲来し基礎のコンクリートには沢山の虫が張り付き、空気取り入れ口兼虫返しを越えて壁に張り付いてサナギになる。カマキリもいっぱい壁に卵を産み付ける。これらも2年目から少しずつ減り3年目には大分少なくなった。

庭の植木も大きくなり花も咲き出した。宿根草も年とともに増え、庭の形も整いつつある。

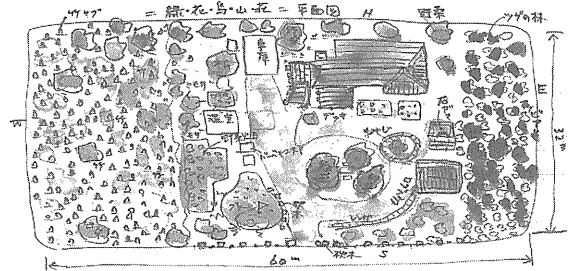
この3年で、玄関の階段をレンガと枕木で3ヶ月掛かりで作り、パン釜を6ヶ月かけて完成させた。パンはなかなか上手く焼けないが、ピザはまあまあ（孫が言っている）、色々な料理が作れそうだが腕が伴っていない。これから研究して腕を上げて行きたいと思っている。

今年になって、小型ログハウスを購入、基礎も入れ

て2日で建ってしまうものであるが、色々な事のできる多目的趣味空間で、スタンドグラス・油絵・木工細工・酒飲み用にと思っている。

庭の野菜も、ナス・ピーマン・ジャガイモ・シシトウを植えて、そろそろ収穫時期を迎えている。桑の木の実も熟し、ジャムとなった。また、ブルーベリー、ブラックベリー、ラズベリーも植えた。今から収穫が楽しみである。自生する野イチゴも、そろそろ色づく頃であり少量であるが毎年ジャムになっている。

野菜類は田舎ゆえ買っても安く、ご近所からいただいたりするが、庭で収穫した物を食べるのは格別の旨さがある。



田舎暮らしは、とかく近所付き合いが難しいとか、この地域は新興地で鹿嶋市にある工場に働く人と自営業の人で古くからの農家はなく難しい仕来りはない。町内会の班があり、年末の総会（男の人の飲み会）、新年会（全家族の飲み会）を行い、楽しく付き合わせて頂いている。また、夏には全戸にバーベキューの案内を出して庭で盛大に飲み会を行っている。

都会には無いこともいくつかある。多分町の税収が少ないため止むを得ないところではあるのだろうが、PTA、消防、神社の寄付、また、区会費、町内会費があり、勤労奉仕が川掃除、粗大ゴミ置場掃除がある。

反省点は、女房が「都会が恋しい、孫が恋しい」と何かに付けては娘の住む横浜に行き、なかなか帰って来ないことである。また、春から夏にかけての庭の草取りは大変で取り終わった頃には、また新しい草が生えてくる（除草剤は使わないことにしている）。

田舎暮らしが始まったばかり、土日はアツという間に過ぎてしまう。夜明けの鳥の声で目を覚まし、出勤前の2時間はガーデニングに精を出している。

夢のある限りは青春とか、まだまだ夢はいっぱいある。これからもこの気持ちで生きて行きたい。

一年を通して緑があり、花が咲き、鳥の集まる場所にして行きたい。そんなささやかな願いを込めて、我が家に「緑花鳥山荘」と名付けた。

—まえた たけし 社団法人日本作業船協会技術部長—